

令和3年6月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、6月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様の、新型コロナウイルス感染症対策へのご協力に感謝いたしますとともに、今議会におきましても、議会運営に格別のご配慮を賜り重ねてお礼申し上げます。

1) ピンチからの脱却～復活へのプロローグ～

市民の皆様には外出や活動の自粛、飲食店など事業者の皆様には時短営業や休業など、多大なご協力いただき心より感謝申し上げます。また、最前線で新型コロナウイルスと闘い続けている医療従事者の皆様には、休日返上でワクチン接種にご尽力いただき、感謝の気持ちを言葉では言い尽くせません。

本市の感染者数の累計は242名にのぼり、クラスターはこれまでに4件発生、新規感染者数は減少しているものの、変異株であり、依然として一時たりとも油断ならない状況が続いています。我々はこれまで、市民の命と生活を守るため、

考え得る限りの対策を講じてまいりました。そして、ようやく、このピンチから脱却するための希望の光が見えてきました。それは、新型コロナワクチン接種による抗体の獲得です。本市は、9月末日までに市民全体の7割が抗体保持者となる、集団免疫を獲得した社会の構築を目指します。ワクチン接種は強制ではありません。しかし、接種を望む方には、一刻も早くスムーズに接種できる環境を作ることに全力を尽くしてまいります。

今後、64歳以下の方への接種がついに始まります。6月7日から、対象の方への接種券を発送しており、6月18日から、まずは基礎疾患のある方と、60歳から64歳までの方の予約受付を開始します。次に、6月23日からその他の方の予約受付を開始し、いよいよ7月1日からは、64歳以下の方への接種をスタートしてまいります。スピードだけを追求するのではなく、副反応などの状況を見ながら、場合によっては接種のスピードを緩めることも含め、慎重に行ってまいります。

また、7月15日からは、接種会場を総社市民会館へと移

して大規模集団接種を開始し、日曜日は1日2,000人、木曜日と土曜日は1日1,000人の接種を目標としてまいります。

6月21日からは、国が進める企業での接種が始まります。本市では、協同組合ウイングバレイで接種がスタートできるよう、準備が進められておりますので、市としてもバックアップしてまいります。

12歳から15歳の方の接種券につきましては、現時点では発送しておりません。この件に関しては、私自身が文部科学省や厚生労働省と直接論議をし、早急に接種方法等のガイドラインを示していただくよう求めております。これを受けて、教育委員会、学校、保護者と協議をしながら、接種の方法、時期について柔軟に対応してまいります。同時に、我々基礎自治体の責務として、市民に対して、ワクチンについての情報を伝えてまいります。

なお、約2万人の65歳以上の方のうち、1回目接種者数は、本日で11,058人、2回目接種まで終えた接種完了者数は、1,047人となります。さらに現在、新たに設け

た予約枠やキャンセル枠を活用して、介護のデイサービス職員への先行接種を進めていますが、今後さらに、保育園・幼稚園や障がい福祉事業所のスタッフの方にも拡大し、現場の皆さんや子どもたちの安全につなげてまいります。

我々の目指す抗体のある社会を一刻も早く実現するため、吉備医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師の皆様のご協力をいただきながら、一致団結してワクチン接種に取り組んでまいりますので、市民の皆様にもご協力賜りますようお願いいたします。

2) 経済再生～真の福祉文化先駆都市を目指して～

長引くコロナ禍において、人流が途絶え、休業や営業時間の短縮を余儀なくされ、売り上げが大幅に落ち込んでいる飲食店等が多くあります。

だからこそ、経済復活の切り札として、第2弾そうじゃ復活券を現在販売しております。プレミアム率50%、経済効果は実に10億5千万円であります。引き続き、市民一丸となって総社経済を盛り上げてまいりましょう。

また、経済再生には、人口を増やし、まちの活力を増進させることが肝要です。先月、令和2年度国勢調査の速報値が発表されました。本市は、人口69,106人となり、この人口減少社会においても、前回の調査より2,251人増加、率にして3.37%の増加となりました。この増加率は、岡山県内では第1位、中国地方では、増加率3.42%の広島^{かいたちょう}県海田町に次いで、第2位であります。4月13日には、過去最大人口を更新し、人口69,797人を記録しました。

持続可能な市政には、健全財政の運営が重要です。平成30年度と令和元年度、本市は2年連続で赤字となり、財政調整基金を取り崩さざるを得ない状況にありました。しかしながら、現在取りまとめている令和2年度一般会計決算は、約8億8千万円の黒字決算となる見込みであります。

人口増加の加速に加えて、黒字決算の見通しが立ち、総社市は、ピンチからの脱却、そして復活のステージへと大きく羽ばたいてまいります。その先に見据えるものは、真の意味での全国屈指の福祉文化先駆都市の実現であります。この信念を貫き、これまで以上に、市民に徹底的に寄り添う市政を

進めてまいります。

3) 復興3周年～あの災害を忘れない～

市政のさらなる発展を語る上で、決して忘れてはならないのが、平成30年7月豪雨災害からの復興であります。今年が発災から3年目に当たり、7月6日には、美袋地区において復興3周年式典を開催いたします。当日は、被災地の悲願である美袋地区排水機場の竣工記念式典も併せて開催いたします。去る5月14日には下原地区に排水対策ゲートが完成し、6月29日には秦地区の排水機場も完成予定であり、本格的な出水期に向け、着実に排水対策を整えております。また、復興住宅は7棟が完成し、仮設住宅にお住まいの方々全員が入居完了いたしました。心の復興に不可欠な住居の確保については、一定の目途が付きましたが、これで終わることなく、今後も被災者の方々に真摯に寄り添ってまいります。

(2月議会での検討について)

ここで、2月議会での検討事項につきまして、その結果を

ご報告いたします。

山田議員から、行政手続等のデジタル化の進捗状況について、ご意見をいただきました。これについては、3月24日に「総社市デジタル変革宣言」を発表し、市をあげてデジタル化に取り組む決意を表明いたしました。現在、できることから着実にデジタル化を進めており、市税納付時のスマホ決済は4月から実施しております。加えて、先の2月議会においてご承認いただいた、窓口における証明書発行等手数料のキャッシュレス化については、今年度上半期中の実施に向けて準備を進めています。また、来るべき行政手続のオンライン化に向け、押印の見直しについて検討を始めているところでございます。

1年以上に渡る、長く暗い新型コロナウイルスとの闘いも、ワクチン接種を進めることで、未来に明るい希望の光が見えてきました。ピンチからの脱却、総社経済の再生を必ずや成し遂げるため、今議会を復活へのプロローグと位置づけ、市民一丸となって、ワクチン接種に全力で取り組んでまいります。

すので、議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、より一層のご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。